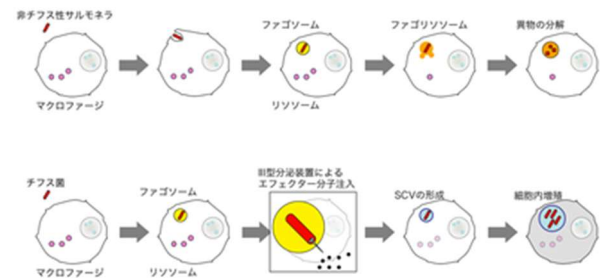


腸チフス、パラチフス、発疹チフス（3類）

2016.11

■ **チフス** は①サルモネラ属チフス菌 (*Salmonella enterica* serovar Typhi) の感染で発症する**腸チフス** ②パラチフス菌 (*S. enterica* serovar Paratyphi A) の感染で発症する**パラチフス** ③発疹チフスリケッチア (*Rickettsia prowazekii*) の感染によって発症する**発疹チフス**の三種類。 狭義には①**腸チフス**（3類）を指す。 病名は高熱により意識混濁を生じ、ぼんやりした : typhus（ギ）に由来。 高熱でも①**徐脈**、②**白血球減少**、③**バラ疹**（高熱時のみ現れる発疹）が特徴的（肝、脾腫あり）。 診断は菌の分離培養（血液、便、尿）、Widal 試験（古いので実施困難）。 フルオロキノロン、ST バクタ、セファロスポリン有効。 成人では下痢より便秘が多い。 健康保菌者はメアリー・マローン（Typhoid Mary）が有名。 彼女は米国で家政婦として料理、数十人の患者と3名の死者を出した（胆嚢保菌）。 日本では千葉大チフス菌事件*（冤罪説あり）。 サルモネラの名は米研究者 D. Salmon による。 経口感染により小腸上皮細胞に寄生。 通常サルモネラ菌はマクロファージで処理、ただし**チフス菌は細胞内で増殖する**。 マクロファージは菌を分解する白血球の一種で単球（単核白血球）由来、48時間後血管外に出て組織中でスカベンジャー（掃除係）として働くが、結核菌やチフス菌の生育場所にもなる。 ■サルモネラ属は**グラム陰性通性嫌気性桿菌**でブドウ糖を嫌氣的代謝する

（大部分が硫化水素を発生）。 腸内細菌科の**サルモネラ属**に属する。 サルモネラは細胞壁 LPS（リポ多糖体）の O 抗原、鞭毛の H 抗原による Kauffmann-White 分類で 2000 種以上に分類されたが、近年改訂され腸チフス



菌 (*S. typhi*) 豚コレラ菌 (*S. choleraesuis*) 腸炎サルモネラ (*S. enteritidis*) の 3 つに分類された。 **ヒヨコや子亀**は高率にサルモネラ菌を保有し小児へ感染するので米では販売禁止。 **ペット爬虫類**の 9 割はサルモネラ保菌。 ヒトで分離されることはまずないと考えてよい。 **鶏卵のサルモネラ感染**は卵殻の形成前に起きるので、洗浄が無意味

な点は前述。 サルモネラは外毒素を持たない。

■ **パラチフス** (*S. Paratyphi A*) はチフス菌同様にヒトに限って起こり、患者および無症状保菌者の糞便と尿、汚染された食品、水、手指が感染源で経口的感染。 ワクチンもあるが手洗いが予防の主力。 国内では年間 50-60 例(パラチフス 20 例)。

■ **発疹チフス**は *Rickettsia prowazekii* 感染症 (4 類)。 ダニ・虱が媒介。 国内では S32 以降は

無い。 戦争に伴って発生することが多い（例アンネ・フランク）。 60 歳以上は死亡率 100%。 治癒数年後の再発は**ブリル・ジンサー病**と呼ぶ。 治療はテトラサイクリン。 ワクチンは入手困難。



*1966(S41)、社保三島病院と千葉大付属病院、川鉄千葉工場、御殿場で 100 人規模の腸チフスが發生、千葉大無給医局員が犯人とされた。 自然発生説も強い。